

欧州排出権価格の動向について

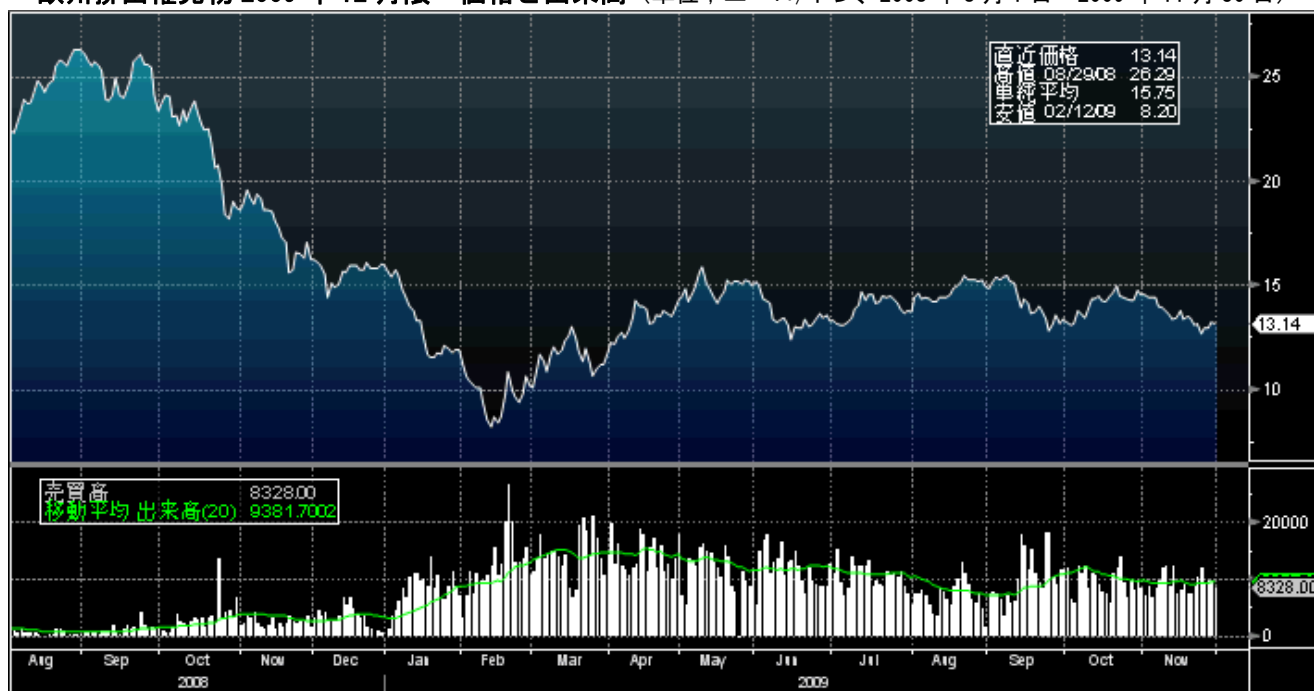
2009年11月の同年12月限欧州排出権先物価格は、11月2日に14.71ユーロ/トンと月間高値で寄った後、月半ばまで概ね下落基調の展開、11月25日には12.47ユーロ/トンと6月半ば以来の安値を取引時間内につけました。月後半に反発も見られましたが、総じて軟調な一ヶ月となりました。

2009年12月限の欧州排出権先物価格は、10月30日の終値14.54ユーロ/トンに対して、11月30日終値は13.14ユーロ/トンと9.63%下落しました。終値ベースの月間高値は11月2日の14.54ユーロ/トン、終値ベースでの月間安値は11月24日の12.63ユーロ/トンでした。

月前半から月半ばにかけて、欧州の天然ガス価格が続落したことが、排出権への売り意欲を促しました。欧州広域で温暖な天候を背景にガス需要が弱まるなか、ノルウェーやオランダなどからの出荷が増加したことで、供給余剰感が強まり、ガス価格は一段と下押しされる格好となりました。ガス安や温暖な天候を受けて、各国の電力価格も下落基調を強めました。これらによって、発電における石炭火力の経済優位性が低下する格好となりました。石炭製品を利用する自家発電よりも買電のほうが割安となり、発電企業だけでなく製造業からの石炭利用に伴う排出権需要は後退しました。

月後半は、中国政府が2020年までの排出量削減目標を発表したことや、第二期間中のポーランドへの割当量増加を認めた第一審判決に対し欧州委員会が上訴する構えを示したことで供給逼迫感が台頭しました。欧州のエネルギー市場が米ドル安等を受けて回復基調に転じたことも重なり、排出権を買い急ぐ動きが強まった模様です。また、気温の低下やガス供給の減少が観測される状況となっており、天然ガスや電力価格が続伸すれば石炭火力発電所の稼働が高まる可能性もあるでしょう。

欧州排出権先物 2009年12月限 価格と出来高 (単位: ユーロ/トン、2008年8月1日~2009年11月30日)



(出所) ブルームバーク